

約35名の社員の中で、肩書きがあるのは創業者の大槻雅晴代表

筑波エンジニアリング

扉の先 自動化時代の挑戦者たち

「ウチは特に役職とかを設けていないんですよ。社員全員がそれぞれの部門における『スペシャリスト』です。自分の仕事に誇りと責任を持って仕事に取り組んでいる。また、様々な案件が同時に多数進行していますの

「役職無し」のフラット環境

複数の自動化案件をこなしきる

大槻氏は「食べていくために、ありとあらゆる仕事を請け負っていた結果、こうなった」と謙遜するが、現在では大手メーカーの製造ライン構築を任せられるほどだ。同社が得意としているのは、インサート成形の自動化。射出成形機に作業員を配置して、一日何千、何万回という作業を人手で行う現

場も少なくない。だが、同社では多関節ロボットを使ったインサート挿入やアウトサートを可能にする。また、ゲートカット機やバリ取り装置、パレットチェンジャー、外観検査等の後工程を行う装置を組み合わせた完全省人化ラインの構築も提案している。「成形の自動化において、重要なのは金型を壊さないこと。インサートにはバラツキがあったり、不良品が紛れ込んでいることも稀にあります。弊社では多関節ロボットにセンサなど様々な仕掛けを施し、金型を保護するための安全対策も提案できます」



ティーチングに取り組む佐野さん

「ベテランが多くなってきたので、彼らが持っている技術を次代に継承していかなければなりません。自動化・ロボット化をクリエティブな感覚で取り組んでもらえる職場場場ではないかと自負しています」

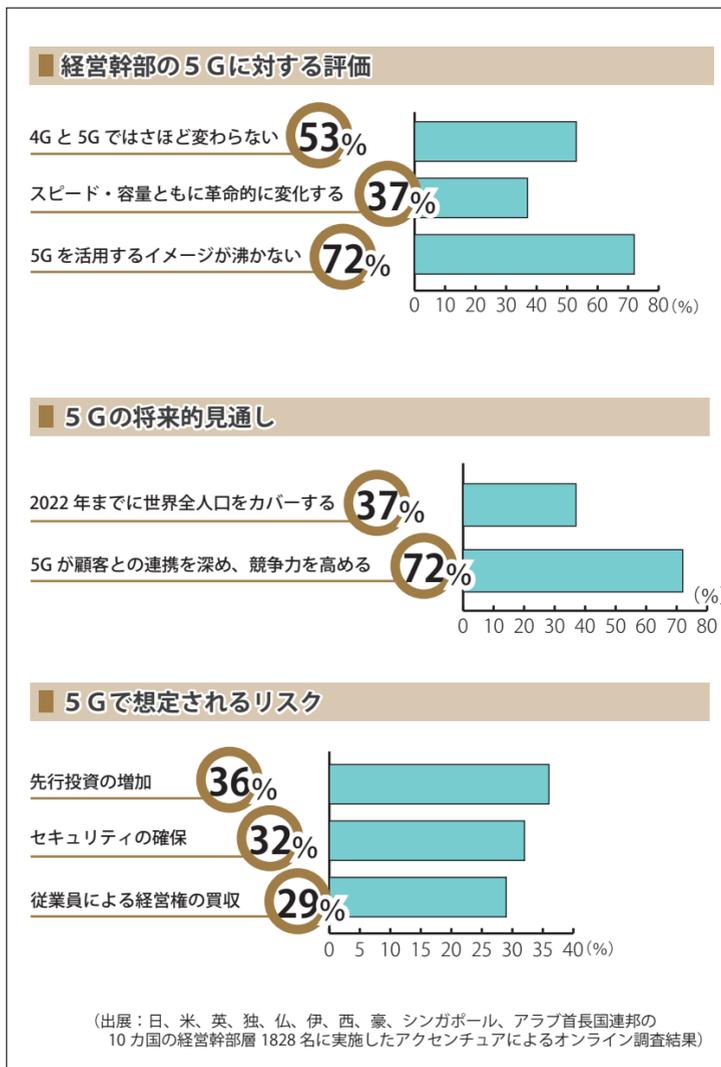
一般的なロボットSierの労働環境は、比較的残業が多く決して良い環境ではないとも言われている。だが、同社ではほとんどどの社員が残業ゼロで帰途に着く。に作業をしています。誰もが多くの案件を抱えています。残業はほとんどありません。残つてやれば誰でもできますからね」と社員それぞれが、5Gが企業にもたらす価値や可能性を感じ取っているリーダーも多数いると分析する。

Memo

筑波エンジニアリング 1977年設立、社員35人 本社：茨城県稲敷郡阿見町阿見原 5445-8 年間40～50の自動化案件を納入

営業担当の大槻歩氏の前職は、在京キー局で様々な有名テレビドラマを手掛けたTVディレクター。異業種からSier業界への転身について「慣れないことも多く最初は戸惑ったが、いまでは複雑な案件を納入し、お客様に喜んで貰えた時の充実感は何にも変えがたい」と語る。

世界10カ国経営幹部1800人調査 5G市場「不透明感」と「期待感」



企業幹部の60%は、5G(第5世代移動通信システム)が2022年までに世界人口をカバーすると見る。経営コンサル大手アクセンチュアは、2018年12月～2019年1月にかけて世界10カ国(日、米、独、英、仏、伊他4カ国)12部門で経営幹部1828人(915人の1同意思決定者及び913人のビジネス意思決定者)に実施した5Gに関するオンライン調査の結果を公表した。

命的な変化をもたらすと考えているのは37%にとどまり、「5Gを活用するイメージが湧かない(72%)」という回答も多く見られた。その理由として「ネットワークの構築にしばらく時間がかかる」、「事業や生産性に与える影

響がわからない」、「デバイスがまだ流通していない」、「料金体系が不明」といった点が挙げられている。一方で、5Gがビジネス上での競争において、重要な意味を持つことも認めている。幹部らの72%が「5Gで使用するアプリケーションが顧客との連携を深め、競争力を高める」と考えている。また産業によって期待する分野も異なる。エネルギー分野の幹部の半数以上(53%)は、5Gが遠隔地や不便な地域に革命的な影響を与えると回答している。アクセンチュアのネットワーク部門のジョージ・ナチス氏は、「3D映像の普及や自動走行車、スマートシティといった先端技術はまだ漠然とした未来しか見えていないが、5Gにより革新的な進歩を遂げるだろう。これらの技術進歩の見通しをはっきりさせる上で、最も中心

的な役割を果たすのは、インフラを整備する通信プロバイダになる」と語る。また、経営幹部たちが5G導入のリスクとして「先行投資の増加」(36%)、「セキュリティの確保」(32%)、「従業員による経営権の買収」(29%)を挙げている。セキュリティに関しては、裏を返せば経営幹部の68%は5Gを使用することでビジネスの安全性が向上する、と捉えているとも言える。これらの回答について、アクセンチュアは「経営幹部たちにとっても、まだまだ5Gに対する知識のギャップがある。しっかりとネットワークが構築されてからでない」とのリスクや不確実性が見えてこない部分もあるのも事実。だが、5Gが企業にもたらす価値や可能性を感じ取っているリーダーも多数いると分析する。

5G(第5世代移動通信)の話題が製造業の世界でもよく聞かれるようになった。基地局設置に絡み、試作型通信の端末的存在になった。といった話も、準大手機械メーカーが開発を仕切る経路だ。また、5Gがビジネスに不可欠な存在になる日も遠くないだろう。5G関連ビジネスが順調に立ち上がるかもクエスチョン。くだんの経営幹部は「他社より先行して5Gに対応したいが、2歩も3歩も前に出ようとすると、ポイントがずれる」と苦笑した。だが、足下のニーズに対応した開発と、中長期的な5G等に対応したソリューション開発の2足のわらじを心掛けていこう」と言う。各社各様の水面下の動きは5Gビジネス本格化とともに一気に表に出る。それがもう秒読み段階に入った。

5G(第5世代移動通信)の話題が製造業の世界でもよく聞かれるようになった。基地局設置に絡み、試作型通信の端末的存在になった。といった話も、準大手機械メーカーが開発を仕切る経路だ。また、5Gがビジネスに不可欠な存在になる日も遠くないだろう。5G関連ビジネスが順調に立ち上がるかもクエスチョン。くだんの経営幹部は「他社より先行して5Gに対応したいが、2歩も3歩も前に出ようとすると、ポイントがずれる」と苦笑した。だが、足下のニーズに対応した開発と、中長期的な5G等に対応したソリューション開発の2足のわらじを心掛けていこう」と言う。各社各様の水面下の動きは5Gビジネス本格化とともに一気に表に出る。それがもう秒読み段階に入った。



THE NIHON BUTSURYU SHINBUN

2019年4月25日

No.1431号 (10日・25日の) 月2回発行

発行所 株式会社 日本物流新聞社 本社 〒550-8660 大阪市西区立売堀2-3-16 TEL.(06)6541-8048(代) FAX.(06)6541-8056 E-mail: nb-osaka@nb-shinbun.co.jp ホームページ http://www.nb-shinbun.co.jp/ 東京支社 〒108-0075 東京都港区港南2-14-14 品川インターシティフロントビル3F TEL.(03)6712-1391(代) FAX.(03)6712-1398 E-mail: tokyo@nb-shinbun.co.jp 購読料 年間8,000円(消費税別) 振替口座00910-3-23940



HEADLINE

8~9 使いやすい パワーツールの条件



自由度の高い操作性で、省力化と時間短縮が可能なパワーツールに注目した。作業環境、使用者によって大きく変わるのが「使いやすさ」。パワーツールメーカーは多様化する市場ニーズを仕様やデザインに反映している。

10~11 製造現場の「酷暑対策」 灼熱列島ニッポン 激増する熱中症被害

観測上の「冷夏」と言われた2009年を境に、例年猛暑に襲われるようになった日本列島。世界的な気候変動を鑑みると、今後も従来の対策では乗り切れない酷暑が当たり前となる可能性が極めて高く、製造現場にも新たな取り組みが求められている。

次号は

次号は5月15日の発行です。季刊のアジア特集 [Asia版] は東南アジアでインドネシアに次ぐ経済規模を誇るタイや、その隣国ラオスに注目します。また、4月から新3カ年中期経営計画をスタートした山善の長尾雄次社長インタビューも。

心象録

から足下のニーズに対応した開発と、中長期的な5G等に対応したソリューション開発の2足のわらじを心掛けていこう」と言う。各社各様の水面下の動きは5Gビジネス本格化とともに一気に表に出る。それがもう秒読み段階に入った。